

横浜吉田中同窓会会報

発行人横浜吉田中学校同窓会 発行日平成30年2月26日

卒業を間近に控えた2月19日、中区『にぎわい座』で三年生を対象に落語観賞会が開催されました。

同窓会としては毎年秋に学年全生徒が発表する文化祭の中で私共が企画した『落語文化を伝える会』を実行してきましたが、今回は先生方のご推奨もあってにぎわい座での開催となりました。

当日は一部にミニライブ、二部に落語鑑賞、三部に演劇鑑賞と組まれました。

落語が始まる前、出演者の桂歌助師匠は『どうやって若い世代の方に古典落語を理解してもらおうか』と腐心されていましたが、そこは話芸の達人。始まると早速生徒さんと先生の代表に舞台上がってもらい、まずは『蕎麦のすすり方』で即席の稽古をつけたのでした。お弟子となった二人が交代で歌助師匠に教わった通りに右手に箸にたとえた扇子を、左手にそばちょこをもつ仕草で『ズズズーっ』と音をたて蕎麦を食べる所作を演じると会場からはどっと歓声と拍手が沸き起こったのでした。もうこれで師匠が心配していたことが吹き飛んでしまいました。会場と舞台が一体に



(高座に座り歌助師匠から稽古を付けてもらう)

ると、まずは二つ目の春風亭昇市さんが登場。昔話しをして子を寝かせつけようとした親が子どもと珍問答しているうちに逆に寝てしまう『桃太郎』という噺を、次に歌助師匠がニート元祖の若者が改築なったばかりの近所の家を褒めにいってまき起こす与太郎噺『牛ほめ』の二席が熱演されました。

今回、寄席へ出かけ生の落語を聴いたことで普段殆ど接することのない伝統芸能の世界に少しでも興味をもっていただければ、また三年生への卒業記念となれば同窓会としても望外の喜びであります。



(牛ほめを演ずる桂歌助師匠)

出演者のプロフィール

桂歌助師匠 新潟県十日町出身。高校時代まで野球少年でセカンドを守り甲子園を目指していたが出場できず、野球の指導者として教師の道をめざす。大学に入ると人前で話す練習にと落語を聴きにいったところ落語の魅力にはまり、在学中に桂歌丸師匠の門をたたく。現在真打ちとしてにぎわい座をはじめ各地の公演会で活躍する。また地域の活性化にも尽力する。横浜市港南区在住。



春風亭昇市さん

春風亭昇太師匠の弟子で現在二つ目の若手落語家。

☆野毛『にぎわい座』での落語観賞会にあたって☆一昨年から同窓会が企画して文化祭で実行してきた『落語文化を伝える会』が先生方から評価をいただき今年度は三年生を対象に実行することが決まったのは29年8月の頃でした。

その時野毛の『にぎわい座』が利用できることを知り以来、先生方をはじめ地域の町内会長さんや野毛地区街づくり会の皆さん、にぎわい座の方々にご理解とご協力をいただき今回の開催の運びとなりました。また、同窓会名誉会長の桂歌丸師匠門下の桂歌助師匠には今回も出演いただき春風亭昇市さんにも参加をいただきました。多くの皆さま方のご理解ご協力に感謝申し上げます。

卒業を控えた三年生には生の落語に触れることができ卒業のよき思い出となることを願って止みません。

同窓会会長 中村 宣吉